

# 大阪ろうさい クロニクル

第8号

発行日  
2024.4.1

## 院長就任のごあいさつ

院長 平松直樹



2024年4月より大阪労災病院長を拝命いたしました平松でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、神戸に生まれ育ち、1986年に大阪大学を卒業し、4年間の研修(関西労災、JCHO大阪)の後、大阪大学消化器内科学教室に26年在籍しておりました。大学では、10年間、消化器内科の病棟主任を担当し、診療、教育ならびに臨床研究を行ってまいりました。また、林 紀夫初代教授(現 関西労災病院長)のもと、6年間、診療局長ならびに医局長として、教室運営に携わってまいりました。この間の様々な経験は、今の私にとって大きな糧となっております。

2016年に、副院長 兼 消化器内科部長として当院に赴任させていただきました。当院では、消化器内科における診療・指導を行う一方、がんセンター長として、2017年より毎年スタッフの絶大なるご協力のもと、“ろうさい市民がんフォーラム”を開催し、2019年には、緩和ケア科ならびに腫瘍内科を開設、そして同年、がんゲノム医療連携病院の認定を受けて“がんゲノムセンター”を開設しました。2020年には“地域がん診療連携拠点病院(高度型)”にも認定されました。また、病院運営では、新病院に向けての次期システム委員会委員長を務め、コロナ感染対策会議長、救急部・手術部運営ワーキング議長などを担当してまいりました。

当院は、2022年に新たな病院として生まれ変わりました。新病院では、さらに高度専門医療の拡充、救急医療を含む急性期医療の充実が図られています。ハイブリット手術室(150㎡)を含む16室を有する広大な手術エリア(3,200㎡)では、日々高度な手術やロボット手術など低侵襲の手術をはじめとした多種多様な手術が行われています。また、救急センターは、スタッフも充実し6床での対応が可能となり、さらに集中治療室が28床(ICU12床・HCU16床)と倍増したことで、患者さまにとって、より安心かつ安全な診療が行えるようになりました。

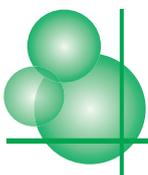
当院には、先人たちの絶え間ない努力により幾多の古き良き伝統が築き上げられています。これを基盤とし、さらなる発展のために、「病院革命 Hospital Innovation」をスローガンに、西野特任院長と協力しながら、患者さまにより良い医療を提供できるよう、また職員全員にとって働き甲斐のある職場にできるよう、スピード感をもって改革に臨んでまいります。そして、スタッフ全員がONE TEAMとなり、これからも南大阪の地域の中核病院として、信頼される質の高い医療の提供に全力を注いでまいります。今後とも、ご支援、ご鞭撻いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 基本理念

誠実で質の高い医療を行い、  
すべての方々から選ばれる病院に

### 基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



## 特任院長の挨拶並びに 新広報誌発行から2年の感想

特任院長 兼  
本部研究ディレクター(循環器) 西野 雅巳



春光の候、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、小生はこのたび、大阪ろうさい病院特任院長 兼 本部研究ディレクター(循環器)を拝命いたしました。ひらたく言えば平松院長と協力して大阪ろうさい病院の運営に二人三脚(Two Top)で関わり、より良い病院にしていくようにと本部からの指令を受けたということです。

小生は縁あってこの病院に40年勤めることになりました(一時、海外逃亡していましたが---)が、その間に大阪ろうさい病院は種々、変化を遂げてまいりました。しかし、2年前の新病院への移転が最も大きな変化であり、喜ばしいことでした(60年ぶりの新病院でしたから)。ご存知の通り、大阪ろうさい病院は今年12月のグランドオープンに向け、現在、着々と準備を進めています。外構工事はまだ進行中ですが、中は新病院となりハイブリッド手術室を含めた手術室(16室)、心臓カテーテル室(3室)、ICU・HCUがすべて3階フロアに集約され、非常に効率よく高度急性期医療が行われるようになりました。今後、当院は心臓・脳を含めた循環器診療とがん診療を2大柱として南大阪の基幹病院の中心のひとつとして、さらなる発展を遂げたいと考えています。また、この新広報誌「大阪ろうさいクロニクル」もそのような当院の情報をいち早くお伝えし、堺市を中心とした南大阪においてより良い医療を届けられるように日々努力を重ねてまいりたいと思っております。この新広報誌も新病院プロジェクトの一環として季刊誌としてスタートし、めでたく2年を迎えました。「クロニクル」の意味は「主な出来事を時系列に沿って記載する編年誌」ということであり、この「大阪ろうさいクロニクル」も新病院となった大阪ろうさい病院の各部門の最新の情報を皆様方にお伝えし、あとで見たらこの新病院である(あった?)大阪ろうさい病院の発展が時系列的にも理解できる情報誌であることを願って編集しております。今後も南大阪の医療に少しでも貢献できるように精進してまいりたいと考えています。南大阪の地域医療を支えてくださっている実地医療家の先生方のさらなるご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

## 診療科紹介 整形外科

### 運動器診療を担う整形外科の紹介

整形外科部長 **かいと たか し**  
**海 渡 貴 司**



整形外科では、健康寿命の延伸を妨げる「運動器(骨・関節・筋肉・脊髄/末梢神経)」の障害に対して、脊椎外科・関節外科・スポーツ整形外科・手の外科・リウマチ科の各分野専門医が中心となって最先端の医療を提供し、リハビリテーション科・救急部と連携しながら患者さまの運動器機能の回復を行っています。

2023年は整形外科全体で、約1,700件の手術治療を行い、特に脊椎外科・関節外科・スポーツ整形外科は、大阪府下で有数の手術件数を誇っています。各専門分野の診療内容を簡潔に紹介します。

**【脊椎外科】** 腰部脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニアに対する顕微鏡を用いた低侵襲手術から、小児および成人の脊柱側弯・後弯変形に対するナビゲーションを駆使した変形矯正手術まで、あらゆる病態に対する低侵襲・安全な医療の提供に努めています。2024年からは脊椎内視鏡システムを導入し低侵襲治療を一層強化していく予定です。

**【関節外科】** ナビゲーションシステムを使用した人工股関節置換術や人工膝関節全置換術(TKA)・単顆置換術(UKA)に加えて、人工股/膝関節再置換術・強直股関節手術など難症例の診療も担っています。

**【スポーツ整形外科】** 関節鏡を用いた膝靭帯再建・半月板手術、軟骨損傷修復術などスポーツ障害全般に加えて、変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術(HTO)にも積極的に取り組んでいます。

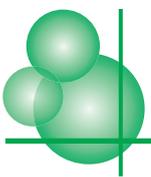
**【手の外科】** 上肢外傷や肘・手・指の関節障害、末梢神経障害に対する手術治療を行っています。また、上肢骨折・外傷患者さまの受け入れ体制の整備を行っています。

**【リウマチ科】** 関節リウマチに対する生物学的製剤を用いた薬物治療のみならず、外反母趾等の足部変形に対する手術治療も行っています。地域に根ざした頼れる整形外科として、診療レベルの非常に高い他診療科の先生方とも連携をとりながら最新の医療を提供して参ります。引き続きご支援を宜しくお願い申し上げます。



#### [各専門分野の外来日]

	月	火	水	木	金	専門医
脊椎外科	○	—	—	○	○	岩崎幹季、海渡貴司、長本行隆、松本富哉、中庭和敬
関節外科	—	○	○	—	—	山村在慶、福永健治、竹村進、上山秀樹、浅野智紀、杉林遼一
スポーツ整形外科	○	—	—	○	○	衣笠和孝、橘優太、西川智也
手の外科	—	○	○	—	○	川端確、飯盛謙介
リウマチ科	○	○	○	—	○	坪井秀規、五島篤史

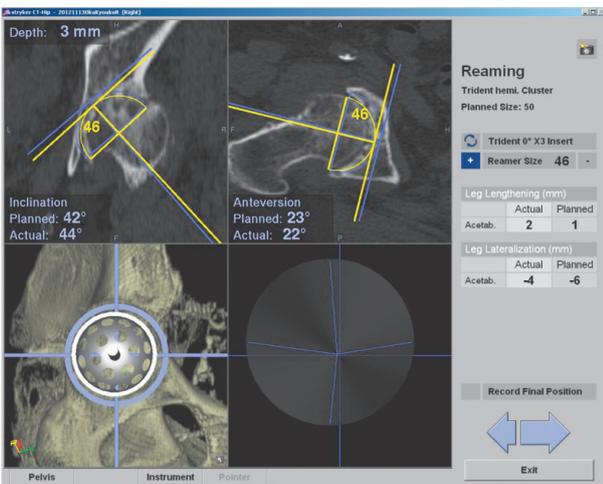


## 診療科紹介 関節外科

関節外科部長 **山 村 在 慶**



関節外科は日本人工関節学会認定医の資格を持つ5名の整形外科スタッフにより構成され、人工股関節全置換術(THA)、人工膝関節全置換術(TKA)に特化した診療を実施しています。現在、人工関節分野におけるコンピュータ支援手術が全世界的なトピックとなっていますが、当院も2013年にナビゲーションシステムをいち早く導入し、すでに2,000件を超える実績を挙げています。ナビゲーションシステムは手術中に骨と手術器具の位置関係をモニター上にリアルタイムで表示するため、従来よりも正確で安全に手術を実施できるようになりました。ひいては合併症のリスクも低減され、より満足度の高い治療を患者さまに提供できるようになっています。大阪はその発祥の地でもあり普及率が高いものの、本邦における普及率は20%程度とまだまだ低いため、コンピュータ支援手術の良さを全国の病院、医師に啓蒙する活動を展開しています。THA、TKAの手術成績の向上に伴って手術を受ける患者さまのすそ野が拡がり、人口減少の局面に入った日本においても総手術数は増加しつつあり、今後もその傾向が続くことが予想されています。当院における2021年のTHA、TKAの総数は455件と大阪府下で3番目に多く(手術数でわかるいい病院2023)、2022年が508件、2023年が560件と順調に増加しております。また当院は再置換症例や高度の関節変形症例などのいわゆる難治例を積極的に受け入れています。難しい症例だから遥か北方にある大学病院に紹介されるのではなく、患者さまに大和川を渡らせぬよう背水の陣を敷き、大阪南部の最後の砦となるために、地域の先生方の信頼を得るべく努めてまいります。引き続きよろしく願い申し上げます。



ナビゲーションシステムのモニター画面



手術風景

## 診療科紹介

## スポーツ整形外科

スポーツ整形外科部長 きぬ衣 がさ笠 かず和 たか孝

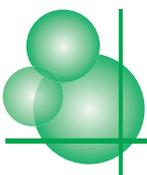
近年、スポーツを楽しむライフスタイルが定着し、スポーツ傷害の治療に対するニーズが高まってきています。そのようなニーズの中で、当院はスポーツ傷害の治療を目的に1992年よりスポーツ整形外科を標榜し、「100%の機能回復」を目指してスポーツ傷害の病態解明や治療法の確立を行っています。手術の際には、スポーツ傷害からの早期復帰ができるように、侵襲を最小限にしながら緻密な処置が可能な関節鏡を用いた軟部組織の再建、修復手術を主に行っています。対象とする疾患は多岐にわたりますが、スポーツ傷害の発生頻度の高い膝関節・足関節の外科的治療が中心となっており、(1)膝・足関節の靭帯再建、修復術 (2)損傷半月板に対する修復術 (3)損傷軟骨に対する修復術 (4)反復性膝蓋骨脱臼に対する関節形成手術などがあげられます。これらの手術は本邦有数の治療実績を誇り、国内外における学術活動も盛んに行っています。

病院外のスポーツ現場においても、エリートレベルから学生レベルのラグビーチームのメディカルサポートを通じて、フィールドでの活動も行っています。スポーツ現場でよく遭遇する、肉離れなどの手術を要さないような一般的な傷害などに関しても、復帰時期を設定するように努め、スポーツ復帰のサポートを行っています。

現在、スポーツ整形外科の診療は、衣笠、橘、西川の3人でこなされており、①日常診療、②学術研究、③スポーツ現場サポートを3つの柱に据えて、スポーツ愛好家のサポートができるように、スポーツ現場での即応性と専門性を生かした診療を行っています。



(左から、橘、衣笠、西川)



## 診療科紹介 手外科

手外科部長 かわ 川 ばた 端 あきら 確



整形外科のsubspecialityの1つである手外科において、日本手外科学会認定の手外科専門医制度はすでに確立されたものとなり、専門分野としての「手外科」の認知度は高く、手外科医による質の高い治療が求められる時代になっています。当院は日本手外科学会の基幹研修施設として認定を受けており、手外科の専門的診療を提供できる中核病院の1つといえます。基幹研修施設の認定には、日本手外科学会認定手外科専門医・指導医が1名以上常勤すること以外に、専門的な手外科手術をある一定数継続して行っていることなどいくつかの条件を満たす必要があります。当院においては、認定施設の継続に十分な手術件数があり、引き続き基幹研修施設としての役割を果たしていく所存です。

当院の手外科では、主に手・手関節・肘関節における疾患、外傷などを扱っており、当院の手外科年間手術件数は約300件です。専門的治療を要する骨・関節・神経疾患、筋腱・靭帯・神経・血管損傷、また専門的手技である関節鏡手術、マイクロサージャリー、人工関節手術など多くの疾患に対応可能です。そのように申し上げながら、予定手術枠は数か月先まで埋まっているのが現状で、待機手術では対応の難しい症例については予定外手術として対応しておりますが、骨折などでお引き受けできていない症例があり、近隣の先生方にはご迷惑をおかけしていると思います。

スタッフは2名体制(川端、飯盛)で、手外科初診を週に2回設け(火曜：川端、水曜：飯盛)、地域の病院やクリニックからの紹介初診患者数は、お蔭様で年間300名を超えており、地域の先生方からのニーズは非常に高いと感じています。「限られた人員と限られた手術枠の中でいかに基幹病院として質の高い専門的治療を提供していくのか」という課題に対しベストアンサーを求めて引き続き努力致しますので今後ともよろしくごお願い致します。

### 手外科外来

	月	火	水	木	金
A M		川端(初診)	飯盛(初診)		
			川端(再診)		
P M		飯盛(再診)	飯盛(再診)		川端(再診)



スタッフ2名(後列左から川端、飯盛)でほぼそそやっております。  
レジデントの先生(前列:2023年度レジデント3名)にも手外科を楽しくしっかり学んでもらえるよう心掛けております。

## 診療科紹介 リウマチ科

### 100歳まで元気ですごせるためのリウマチ治療

リウマチ科部長 坪井秀規



リウマチ科では、主に関節リウマチに対して治療を行っています。2003年のインフリキシマブを筆頭に新しい治療薬(生物学的製剤)が多く登場し、昔は寝たきりになることもあった病気ですが、いまやしっかり治療できれば、多くの患者さまが寛解導入できる疾患となりました。当院ではこれら全薬剤を採用しており、高齢者に対しても積極的に使用しています。しかし、新しい治療薬は効果不十分症例や感染症などの副作用があるのも事実で、長期処方はしておらず、必ず定期的に受診していただき、未然に不具合を防ぐようにしています。

当科では“100歳まで元気にすごせる”ことを目標に治療戦略を立てています。生物学的製剤の登場で関節変形が進んでいく症例は少なくなりましたが、決してなくなることはなく、関節外科手術が必要な患者さまはまだまだおられます。2010年までの膝関節など大関節の手術は減っていますが、足部手術が増えています(図1)。特に前足部手術は古く昔から世界中で行われていましたが、最近はやりよい手術が可能となっています(図2)。変形を残しておくとも将来ADL障害に直結しますので、タイミングよく手術を勧めることが重要で、困ってから手術を勧めるのではなく、100歳まで自立した生活ができるように今の身体機能の貯蓄を考えて、手術のタイミングを判断しています。

“100歳まで元気にすごせる”には、関節リウマチ治療だけでは不十分です。高齢化に伴った対応が必要で、骨粗鬆症治療はもちろんのこと、今年からは体組成(いわゆる筋肉量、体脂肪)計測し、80歳の患者さまにも“筋トレしましょう”、と患者さまにも目標を持ってもらうようにして診療を続けています。

関節リウマチはいまだ原因不明の疾患ではありますが、“100歳まで元気にすごせる”ために、進歩した薬物治療・外科技術で患者さまを救うことを考えながら診療にあたっています。

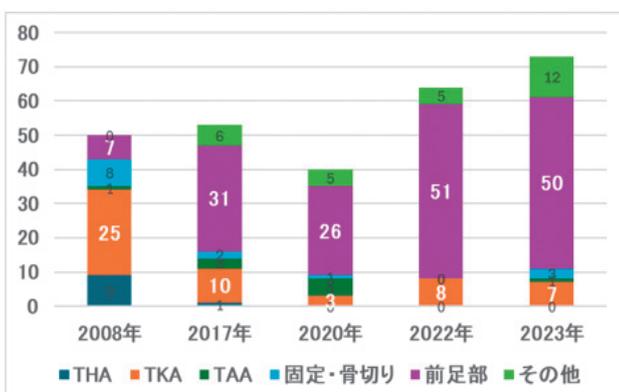


図1 リウマチ科での下肢手術件数の推移

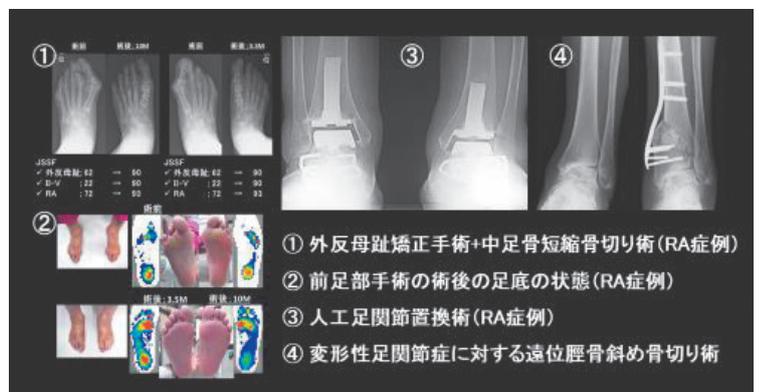
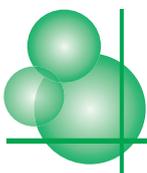


図2 リウマチ科での手術例



## 部門紹介 メディカルサポートセンター

メディカルサポートセンター長・副院長 岩崎 幹 季



診療支援部門としてのメディカルサポートセンターの業務について紹介いたします。

メディカルサポートセンターでは、地域の先生方からご紹介いただいた患者さまの受診予約や診療情報提供書の管理、CT・MRI等の検査機器をご利用いただく際の予約業務などを提供しています（地域医療連携）。また、患者さまやご家族の方が安心して適切な治療を受けられるように医療福祉相談（担当：医療ソーシャルワーカー）や看護相談（担当：看護師）などの相談窓口で問題解決のお手伝いを行なっています。さらに、患者さまが納得のいく治療法を選択することができるようにセカンドオピニオン外来も受け付けています。

([https://www.osakah.johas.go.jp/outpatient/second\\_opinion](https://www.osakah.johas.go.jp/outpatient/second_opinion))

### メディカルサポートセンターの主な業務内容

#### 病診連携・病病連携

- ・紹介患者さまの受付（検査・診察）と予約調整
- ・受診結果や治療経過の報告事務
- ・病診連携推進のための広報活動
- ・紹介情報の管理と分析・報告

#### 医療福祉相談（担当：医療ソーシャルワーカー）

- ・社会資源、福祉制度の相談（障害者手帳・介護保険・年金制度など）
- ・生活費・医療費などの経済的な相談
- ・転医のための医療機関の選定と連絡調整
- ・医療や看護の継続のための援助
- ・社会復帰・退院への援助
- ・関係機関との情報交換・連携・協力体制の構築

#### 看護相談（担当：看護師）

- ・セカンドオピニオンについての相談や予約
- ・在宅医療機器の調整
- ・在宅療養・介護相談

[https://www.osakah.johas.go.jp/section/medical\\_support](https://www.osakah.johas.go.jp/section/medical_support)

独立行政法人  
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**

日本医療機能評価機構認定病院

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

〒591-8025  
大阪府堺市北区長曾根町1179-3

TEL 072-252-3561（代表）

072-255-8076（メディカルサポートセンター）

FAX 072-255-8203（メディカルサポートセンター）

<https://www.osakah.johas.go.jp/>



（病院HP）